

2 指導の工夫・改善

領域	昨年度の状況と本年度の傾向	今後の指導の重点
音声言語 (77. 1%)	・平均正答率は、80%をやや下回っている。ただし昨年度の65. 8%より約11%上回っている。1年次では話し言葉と書き言葉との違いについて理解し適切なや音声の働きに関心を持つことが求められているが、少し音声の働きに対する関心が高まってきたと考えられ、教育の効果がでてきているようである。	・話し言葉と書き言葉の状況による違いについて理解できるように引き続き指導を続けて行きたい。また、話し言葉と書き言葉の音と文字の違いについて理解できるように引き続き指導を続けて行きたい。さらに、話し言葉と書き言葉の違いと共通点を課題に沿って調べ、発表できるように指導して行きたい。
説明的文章 (72. 5%)	・平均解答率は、昨年度同様、80%を下回っている。昨年度の70. 3%をやや上回っている。この領域では事実と意見を読み分け、文章の構成や展開をとらえて、内容の理解に役立てることが求められ、文章の構成や展開を確かめながら要旨をとらえたりできるようになってきたと考えられる。	・説明文の文章全体を通読して、繰り返し出てくる言葉や固有名詞などに注意しながら、要旨をまとめることができるように指導して行きたい。また、文章の筋道や構成に即して、自然界と人間についての筆者の考えをとらえることができるように指導して行きたい。さらに、自分の課題を見つけられるようにしたい。
文学的文章 (78. 8%)	・平均解答率は、昨年度同様、80%をやや下回っている。昨年度の79. 0%とほぼかわらない。この領域では、読書に親しみ、ものの見方や考え方を広げようとする態度を育てることと、文章の展開を確かめながら主題を考え、作品のおもしろさをとらえることが求められ、文章をしっかり読むことが不足していると考えられる。	・文学的文章全体を通読して、おもしろかったところに印をつけたり、思ったことを書き込んだりして、心に残ったことが何かを確かめるようにする。また、作品の中から課題を見つけ、自分の考えを的確に表すために適切な材料を選び、伝えたい事柄や自分の気持ちを明確にするために指導を続けて行きたい。
漢字 (69. 9%)	・平均解答率は、昨年度同様、80%を大きく下回っている。昨年度の67. 7%とほぼ変わらない。この領域では、漢字の字形を組み立てと部首から理解し、書体についても知識を得ることや、多様な語句や語彙についての理解が求められており、同音異義語や音読み・訓読みの使い分けができなかったものと考えられる。	・教材文の中から、漢字には音・訓二種類の読み方があることを指導したい。また、漢和辞典などを使って、漢字の音・訓の読み方を確認させたい。小学校学習漢字(小学校6年生で学習した漢字)に親しみ、書き慣れるように指導を続けたい。
文法・表記・言葉遣い (64. 7%)	・平均解答率は、昨年度同様、80%を大きく下回っている。昨年度の64. 6%とほぼ変わらない。この領域では、指示する語句と接続する語句の使い分けや働きに注意することが求められている。また、段落の役割、単語の種別について理解することが求められている。言葉の単位と性質が理解されていないと考えられる。	・指示する語句(こそあど言葉)の使い方のきまりが理解されていないので、理解できるように指導して行きたい。また、文・文節・単語など、言葉の単位とそれぞれの性質について、理解できるように引き続き指導を続けて行きたい。さらに、文章・段落のはたらきや関係について理解できるように、引き続き指導を続けたい。
作文 (80. 6%)	・平均解答率は、80%をやや上回っている。昨年度の71. 1%を約9%上回っている。この領域では、作文という表現形式を通して適切に表現する能力を高めるとともに表現を工夫しようとするのが求められている。文と文とのつながりや書き言葉についての知識の指導が定着した結果だと考えられる。	・普段から、短い文章でもよいので、自分の発見や驚きといった、自分で興味を持っていることについて、文章でまとめられる習慣を身につけさせるように、指導を続けて行きたい。また、書いた文章をお互いに読みあい、気づいたことを伝え合ったりして、相互評価をしながら、能力向上を図りたい。